

うさぎの耳

聴くことは社会貢献の第一歩！

第51号（2021年3月1日）

福津市社会福祉協議会内

◇ 社協、福津市、包括センター等からのお知らせ

◇ 会からのお知らせ

見学者 原口元博さんを紹介しました

(1) ふれあいコール関連

① 2月の件数は3件でした。

② 高齢化サービス課から、回覧板用チラシが全世帯に周知のため市内自治体へ配布されました。

③ 1月19日読売新聞社の取材を受け、1月30日夕刊に掲載されました。

(2) 3月11日イオンイエローキャンペーンが再開されますが、ボランティアの再開の目途は立っていません。報告書を提出しました（28日）。

助成金は6,000円で、利用記録用紙の提出は6月30日です。

(3) 癒しの傾聴カフェは、3月まで休止します。

◇ 会員の広場

限れた時間を笑顔でいっぱいになりたい

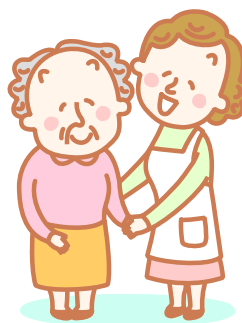
麻生 康子 会員

父が倒れたのは3年前の12月でした。それからは入院先の病院と実家、仕事をしながらの妹との情報交換など忙しい時間を過ごすことになりました。現在は老人ホームでお世話になっています。

問題なのは、一人になった母です。父がいなくなってから徐々に何も出来なくなっていました。時々実家に立ち寄って話をしても細かいことには気付かなかったのです。妹からおかしいと話を聴いていましたが、そんなこともあるさ・・・と軽く考えていました。

今年に入り、妹から疲れ切った声で「もう・・・無理・・・」と連絡があり、大丈夫だと思っていたことを反省し、毎日仕事帰りに立ち寄るようにしています。話し始めと昔の話やあちこち痛いところなど終わりはありません。同じことを繰り返すことも度々あるけれど、落ち着くまで妹の負担の軽減になればと思っています。

親だと思いと感情的になり、ストレスになっていた時期がありました。しかし今では少しずつ崩れていく両親の姿をしっかり受け止め、お互いに笑顔でいる瞬間を沢山共有していきたいと思っています。



◇ 2月の定例会の話題

- 1 総会に向け資料を作成していますが、今年度は活動量も少なくかつ来年度についてもコロナ禍の現状では全く見通しません。
3月定例会で総会資料案を提示の予定です。希望事項などがありましたら、3月10日までに会長までお願いします。

2 全体会議

(1) ふれあいコールについての自由討議

- ・ 10月頃はなぜ多かったのだろう
- ・ 電話をかける理由はどんなところにあるのだろう。
- ・ リピーターの方はどうしているのでしょうか。

上記テーマについて次のような意見が出ました。

- ・ 知らない人と話をする際に話題を考えることが、難しいのではないのだろうか。
- ・ チラシを配布できる所にはくまなく広報活動を行い、その効果はあったようだ。
- ・ 高齢者が自ら電話すること自体に体力的または精神的に、負担大きいのでは。
- ・ 電話をお願いした方は何回も電話をして頂き、盛り上がった。
- ・ 計画当初に予想していた程に、高齢者の落ち込みは少なかったのでは（意外と元気であり孤独ではなかったようだ。）。
- ・ メール文化で高齢者も LINE 楽しんでおり、このような状況下の過ごし方が多様化した。
- ・ コロナ環境が変化して対応要領が様変わりし、自宅に閉じこもることが少なくなった。
- ・ 熟知の間柄、共通の話題があると長話になるようだ。
- ・ こちらから電話を掛ける方式だと受けやすいのでは（登録者に時間を決めて掛けるなど）。費用負担が問題であり、また目的とする趣旨も異なり同一には議論は出来ないだろう。
- ・ 設定している時間帯と自ら電話を掛けたい時の時間調整が難しいのでは。
- ・ ワクチン接種が開始された後の、本コールの件数の推移に注意する必要がある。
- ・ 高齢者課や社協に常設する案もあるが、本来業務に支障を来すのでは。
- ・ 本コールの企画に新聞、テレビなどのマスコミが関心を示し取材・掲載され、時宜に適した福祉活動を福津市が行っているとの周知効果は大きかった。

3 スケジュール調整

ふれあいコール関連のみ

